

HK-3型 加熱試験器使用説明書

(評定番号 評14-345号)

はじめに

このたびは、当協会の試験器をお買い求めいただきまして、ありがとうございます。

この使用説明書は、HK-3型 加熱試験器を正しく、安全にお使いいただく為に、使用方法や注意事項などを記載しております。

必ず最後までよくお読みにになり、十分ご理解いただいた上で、ご使用下さい。

安全上の警告 ⚠

	本試験器は防爆エリアでの使用はできません。
	引火性の高いベンジンを使用していますので、火災の恐れがあります。
	火口部分は高温 (200℃～270℃) になりますので素手で触れたりすると火傷の恐れがあります。
	受変電施設や架線部分などの高電圧場所や商用電源配線等においても裸線の場所は感電の恐れがあります。
	支持棒の使用時、バランスを崩し怪我や死亡事故を発生する恐れがあります。
	支持棒の伸縮時、支持棒のつぎ目に手をはさみ怪我をする恐れがあります。

使用上の注意 Ⓣ (禁止事項) ⚠ (要実施事項)

	校正期間内のものを必ず使用して下さい。 また、評定マークや次期校正年月等のシールのはがれや汚損がないようにして下さい。 詳細は『試験器の校正』参照
	ハクキンカイロ用ベンジン以外の燃料を使用しないで下さい。 また、規定量以上の給油は絶対に行わないで下さい。 詳細は『燃料の給油方法』参照
	未使用時には必ず消火し、安全な場所に火口が上を向くよう、水平に置き保管して下さい。 詳細は『点火及び消火方法』参照
	アルミ製の支持棒は感電の恐れのある場所では絶対 사용하지 ないでください。
	グラスファイバー製の支持棒を感電の恐れのある場所で使用する場合は、必ず所定のゴム長靴・ゴム手袋を着用し、二重の安全策をとって下さい。
	支持棒の伸縮時は、つぎ目に手をはさまないよう、注意をはらい作業を行ってください。
	支持棒を急激に倒し、途中で止めたりしますと、つぎ目部分に大きな加重がかかり、折れや割れを生じますので、大きな加重がかからないよう丁寧に扱ってください。
	可燃物が隣接している所では点火しないで下さい。

使用方法

燃料の給油方法

1. 燃料の種類

ハクキンカイロ用ベンジンを必ず使用して下さい。

他の可燃性燃料のほか、染み抜き用ベンジンについては火口を極度に劣化させる恐れがありますので、絶対に使用しないで下さい。

ハクキンカイロ用ベンジンは下記等で購入いただけます。

ハクキンカイロ株式会社 電話 06-6459-1020

2. 給油量

初回の給油は40mL以下を厳守し、2回目以降の給油に関しては、下表を参考に給油を行って下さい。

使用時間が不明な場合の給油の目安は、『感知器の発報までの時間が長くなるなど、火力低下が感じられた時点で、燃料タンク内の脱脂綿を指で押したときに染み出し、指が若干湿る程度までの給油』とし、それ以上の量の給油は絶対に行わないで下さい。

なお、給油時は必ず周囲に火気の無い安全な場所で行って下さい。

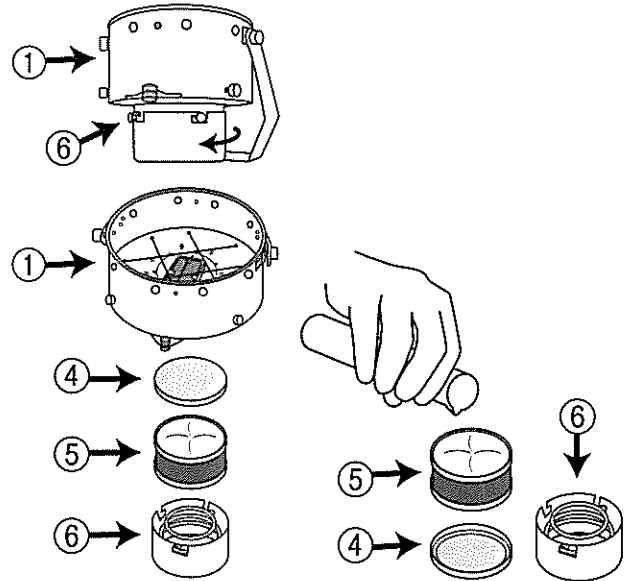
感知器の種類	燃料10mL当たりの使用時間
定温式感知器	1.0時間
差動式感知器	1.5時間
補償式感知器	

3. 給油方法

タンクの保持筒⑥を押し上げるようにしながら左に回し、燃料タンク⑤、消火キャップ④を取り外した後、上記の給油量を燃料タンク内の脱脂綿に給油して下さい。

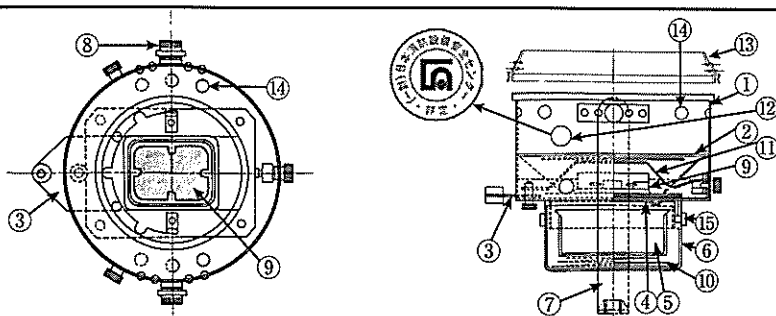
取り外した消火キャップ④は紛失を防ぐ為、燃料タンク⑤の下部に添えて装着して下さい。

なお、給油は必ず周囲に火気の無い安全な場所で行って下さい。



凡 例

- | | |
|------------|-------------|
| ① 外筒 | ⑨ HK-3型専用火口 |
| ② 反射板 | ⑩ スプリング |
| ③ 温度調節板 | ⑪ 火口脱落防止用ピン |
| ④ 消火キャップ | ⑫ 評定マーク |
| ⑤ 燃料タンク | ⑬ 補助筒 |
| ⑥ タンク保持筒 | ⑭ 対流口 |
| ⑦ 本体支持金具 | ⑮ ピンナット |
| ⑧ 支持金具取付ネジ | |



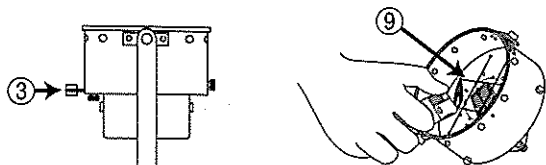
点火及び消火方法

1. 点火方法

温度調節板③を最大に押し込み、試験器を斜めに倒し、試験器の周囲に燃料漏れの無いことを確認後、火口⑨にマッチ又はライターで点火して下さい。(炎は見えませんが、火口⑨部分に手をかざすと熱く感じることで着火を確認できます。)

点火作業を10秒程度以上継続しても着火されない場合は、燃料不足又は火口の劣化が考えられますので燃料量の確認を行い、燃料量に不足が無い場合は火口を交換して下さい。

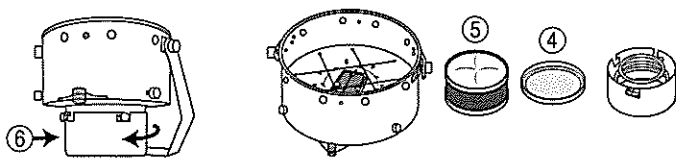
なお、点火後、周囲に火気の無い安全な場所で、燃料漏れないことを再度確認して下さい。



2. 消火方法

タンク保持筒⑥を押し上げるようにしながら左に回し、燃料タンク⑤を取り外し、消火キャップ④を燃料タンク⑤の口にかぶせて装着した後、消火を確かめて下さい。

なお、消火後もしばらく火口や外筒が高温となっていますので火傷等に注意し、温度が下がるまで周囲に可燃物等のない安全な場所に火口が上を向くよう、水平に置き保管して下さい。



感知器の試験・点検方法

1. 支持棒の取り付け

試験対象の感知器の設置高さに応じて支持棒の選択を行い、支持棒の取り付けを行って下さい。

なお、受変電施設や架線部分・商用電源線の裸線部等感電の恐れのある場所の試験・点検時はグラスファイバー製支持棒を使用し、必ず所定のゴム長靴・ゴム手袋を着用し、二重の安全策をとって下さい。なお、アルミ製支持棒は絶対に使用しないで下さい。

2. 補助筒・フェンオール用外筒の装着

日本フェンオール製の感知器を試験する場合(防爆エリアを除く)は、別売の外筒に取り替えて下さい。また高さの高い感知器や感熱部保護に樹脂を使用している感知器を試験する場合は、補助筒⑬を外筒①の上部に確実に装着して下さい。

3. 火口への点火及びその他の操作

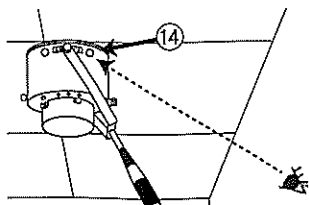
前記の「点火方法」に従い火口への点火を行って下さい。次に、支持棒支持金具や取り付け金具等各部の締め付けに脱落等の可能性のある緩みがないかを確認して下さい。

火力が安定した状態を確認後、試験対象となる感知器の種別に応じて温度調節板③の操作を行って下さい。

試験対象感知器	温度調節板③の位置
定温式感知器	最大に押し込んだ位置
差動式感知器	最大に引き戻した位置
捕償式感知器	

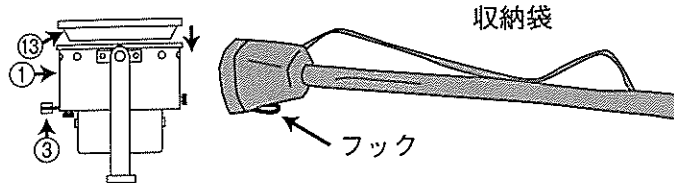
4. 感知器作動の確認

感知器の作動試験時、試験器の上部対流口⑭より感知器作動表示灯の点灯の有無を確認して下さい。



5. 試験器の収納

使用后、試験器が低温となつてから、補助筒⑬を下図のように逆さまに外筒①にかぶせ、温度調節板③が収納袋のフック側になるよう、収納袋に挿入して下さい。



6. その他の注意事項

- 補助筒等の取り付け時は必ず消火し、試験器が低温になった状態で行って下さい。
- 火口への点火後は補助筒・外筒内部等が高温となっていますので、火傷などに気をつけて下さい。
- 1個の感知器を継続して5分以上の加熱試験を行わないで下さい。(感知器に変形・損傷を与える恐れがあります。)
- 試験器の未使用時は必ず消火し、安全な場所に火口が上を向くよう、水平に置き保管して下さい。
- アルミ製支持棒のアルミは比較的やわらかい金属です。コンクリートや鉄骨等に強くぶつくと変形しますので、ご注意下さい。
- アルミ製支持棒のつなぎ目のねじ込み時は、道具を使用せず、ゆっくり手で回して締め込んで下さい。
- 支持棒の伸縮時、支持棒のつなぎ目に手をはさみ、怪我をする恐れがありますので、つなぎ目をおさえての伸縮は行わないで下さい。
- 支持棒を急激に倒し、途中で止めたりしますと、つなぎ目に大きな荷重がかかり、支持棒を損傷する恐れがありますので、丁寧にゆっくり扱って下さい。
- 支持棒のつなぎ目等には油成分が付着しないよう注意して下さい。
- 使用途中での燃料の補給は、必ず消火し、試験器が低温となった状態で行って下さい。

保管とお手入れ

1. 脱脂綿の乾燥

長期間使用していると燃料タンク⑤内の脱脂綿に水分が溜まり、着火しにくくなりますので、毎日数時間程度の使用の場合、2~3週間毎に脱脂綿を取り出し天日干して下さい。

2. 反射板の清掃

長期間使用しますと反射板が汚れます。この反射板の汚れにより感知器の加熱効果が低下しますので、反射板に汚れが生じた場合は外筒①を取り外し、乾いた布で清掃して下さい。

3. 火口の交換

外筒①と反射板②を取り外し、火口脱落防止ピンを外して交換して下さい。

なお、新しい火口は当協会にて販売しております。

保管方法

- 必ず消火し、安全な場所に火口が上を向くよう、水平に置き保管して下さい。なお、長期間の保管時は燃料タンク⑤内の燃料を全て蒸発させ空の状態にして保管して下さい。
- 試験器・支持棒ともに錆やカビを発生する可能性がありますので、乾燥した状態で高温とならない場所に保管して下さい。

試験器の校正

本試験器は消防法に基づく自動火災報知設備等の作動試験にご使用いただく熱感知器用の加熱試験器です。従って下記のことにご注意下さい。

- 評定マーク⑱や次期校正年月等のシールのはがれや汚損がないようにして下さい。
- 加熱試験器の校正期間は10年です。必ず試験器に記載された校正期間内のものを使用して下さい。(期間満了前に再校正の手続きが必要です。(有料))

一般社団法人 **東京防災設備保守協会**
(略称)保守協会

〒162-0805 東京都新宿区矢来町81番地の3
電話 03-5261-4170 FAX 03-5261-4165
http://www.hosyu-kyokai.or.jp

ガス式加煙試験器 取扱説明書






商品記号：TSW-A100

【はじめに】




このたびは、ホーチキ製品をお買いあげいただきまして、誠にありがとうございました。この取扱説明書は加煙試験器 TSW-A100型を正しくお使いいただくために、基本的な取扱方法や操作手順、注意事項などを説明しています。取扱説明書を最後までよくお読みになり内容を十分に理解されてから製品をご使用ください。

【安全のために】

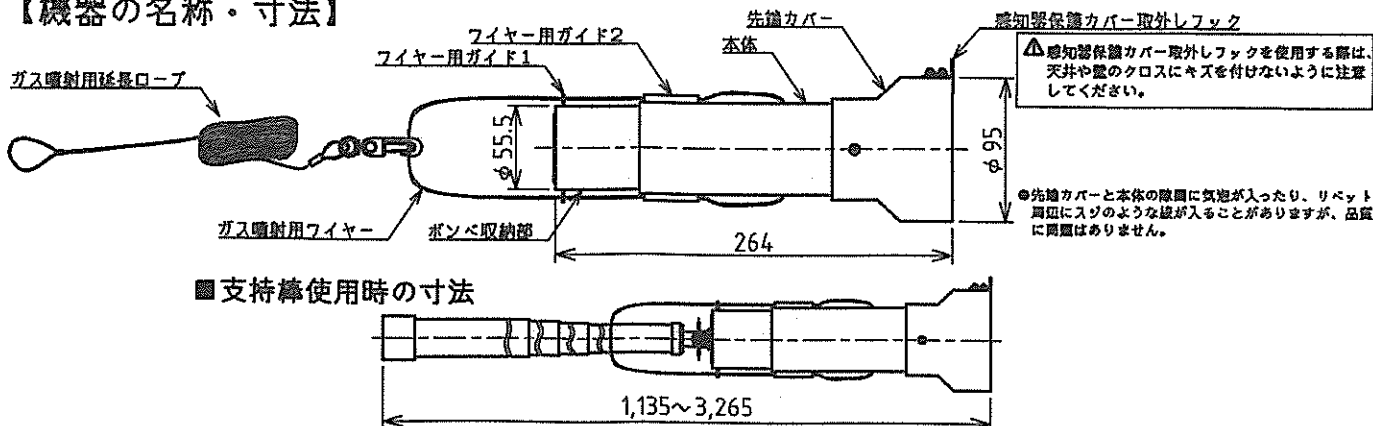
1. 安全に正しくお使いいただくために

 危険	この表示を無視して誤った取扱をすると、使用者が死亡または重傷や傷害を負う場合を表しています。
 警告	この表示を無視して誤った取扱をすると、使用者が重傷や傷害を負う場合を表しています。
 注意	この表示を無視して誤った取扱をすると、正しい点検作業が出来ない場合を表しています。
	「禁止」を表しています。
	「必ず行う」を表しています。

2. 使用上のご注意

 危険	<ul style="list-style-type: none"> ● 高電圧設備内でご使用の際は、絶縁性の高いゴム手袋、ゴム靴等を必ず装着してください。感電の恐れがあります。 ○ また高電圧設備以外でも、本試験器を濡らしたまま、あるいは濡れた手で操作はしないでください。感電の恐れがあります。 ○ 高電圧設備内で支持棒を伸ばす際は、支持棒を高電圧設備に接触させないでください。また、支持棒を伸ばしたまま移動しないでください。感電の恐れがあります。
 警告	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本試験器で使用するガスブレーを日差しが強い場所や車中に放置しないでください。長時間40℃を超える環境に放置した場合、ガスブレーが破裂する恐れがあります。また、高所からの落下等、大きな衝撃を与えないようご注意ください。その他、ガスブレーに表示の注意も併せてご確認ください。 ○ ガスを吸引しないようご注意ください。また、人に向けて噴射しないでください。
 注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 本製品は10年に1度の校正が義務付けられていますので、必ず実施してください。校正予定日に従い校正を受けてください。 ○ 本製品は主にプラスチック部品で出来ていますので、床に落としたり、投げつけたりしないでください。破損の原因となります。 ○ 感知器保護カバー取外しフックを使用する際は、天上や壁のクロスにキズを付けないように注意してください。 ○ 本製品を清掃する際には、アルコール類・シンナー等の有機溶剤は使用しないでください。

【機器の名称・寸法】



【ご使用方法】

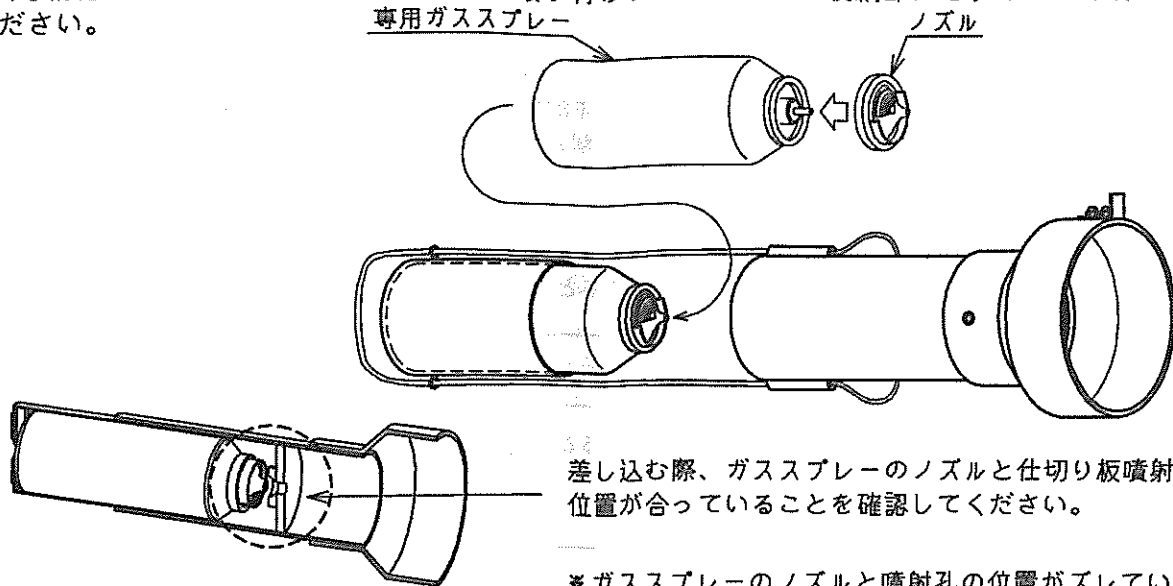
本試験器は、光電式、イオン化式のスポット型煙感知器用の加煙試験器です。

- 感知器の試験以外にはご使用にならないでください。

ご使用の際は専用ガスブレーが必要です。ガスブレーのお求めは最寄りの弊社営業所にお申し付けください。商品記号は『TSD400』です。

1. ガスブレーの装着

- 1) ガスブレー収納部を本体から引き抜いて外してください。
- 2) 本試験器専用のガスブレーにノズルを取り付け、ガスブレー収納部にセットし、本体に差し込んでください。



差し込む際、ガスブレーのノズルと仕切り板噴射孔の位置が合っていることを確認してください。

※ガスブレーのノズルと噴射孔の位置がズレていると正常にガスが噴射されませんのでご注意ください。

ガスブレーセット状態断面

2. ガスの噴射

- 1) ガスブレーをボンベ収納部に取り付け後、先端カバーを押し付けるか、ガス噴射用ワイヤーを引張ることで加煙試験ができます。
約0.5~1秒間噴射した後5~6秒待つと感知器が作動します。(復旧時間を短縮でき、ガスの消費も抑えることが出来ます。) 作動しない場合にはこの操作を繰り返してください。

2) 合否判定の基準(参考)

種別	非蓄積型	蓄積型
1種	30秒	60秒
2種	60秒	90秒
3種	90秒	120秒

3. 機器の清掃

長時間ガスの噴射を続けると、先端カバー内に液化したガスが溜まることがあります。時々、やわらかい布等で拭き取ってください。

4. 低温場所での使用について

⊘ ガスブレーを直火で暖めないでください。ガスブレーが破裂する恐れがあります。

周囲の気温が著しく下がると、ガスブレーの噴射ガス圧も低下するために、感知器が作動しにくくなることがあります。その場合は、「使い捨てカイロ」等を利用して、ガスブレーを人肌程度に暖めてご使用下さい。

5. 仕様

型名	TSW-A100
性能評定番号	評30-009号
使用温度範囲	0℃~+40℃
主要材質	熱可塑性樹脂、アルミニウム
発煙剤	専用ガスブレー: TSD400 (HF0-1234zφ, 窒素)
外形寸法	φ95×264mm
付属品	収納ケース、ガス噴射出用延長ロープ、取扱説明書
質量	約290g (ガスブレー含まず)
オプション	支持棒(一般社団法人東京防災設備保守協会製 共通支持棒 3m)別売

ホーチキ株式会社

本社 東京都品川区上大崎2-10-43 TEL03(3444)4111 FAX03(3444)4118

お客様ご相談窓口 0120-919-856 受付時間 9:00~17:00(土・日・祝祭日、および弊社休業日を除く)